

校友会活動ビジョン

ビジョン

未来を生みだす、立命のきずな。
応援しよう、個のかがやきを。

行動指針

未来を信じ挑戦し、自らのボーダーを超える。
多様性を認め、楽しく相互に成長できるつながりをつくる。
循環型支援の立命文化を創る。
グローバルシチズンとして、広く社会に貢献する。
立命人としての誇りを持ち、大学の価値向上に寄与する。

立命館大学校友会は、設立100周年を機に「校友会活動ビジョン」を策定しました。
私たちはこのビジョンのもと、校友や学生一人ひとりのチャレンジを応援し、
立命館のきずなを未来につなげていきます。

りつめい

No.296 / 2025年4月号

発行所 / 立命館大学校友会 / 年3回発行
発行人 / 門川大作
編集人 / 山岡祐子
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1
Tel.075 (813) 8216 Fax.075 (813) 8217
URL: <https://alumni.ritsumeijp/>
E-mail: alumni@st.ritsumeij.ac.jp

本会報誌は会員サービスの一環として提供しているものであり、転売などの行為は本来の趣旨と異なります。
ご理解とご協力をお願いいたします。



▲ご連絡先の変更はこちらから

りつめい

題字・末川 博名誉総長

立命館大学校友会報

R Alumni

立命館大学校友会

No.296 2025 APRIL

| 巻頭特集 |

大阪・関西 万博から 未来へ

輝くひと

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
副会長・理事・シニアアドバイザー
華道家元池坊 次期家元

池坊 専好さん
(12院文)

いけばなを通じて、いのちと向き合う。

「いけばなでは、つぼみから枯れた花まで、あらゆる『いのち』をあるがままに受け入れることを大切にします。そうしたいけばなの根底に脈々と流れる哲学や美学を伝えたいと思っています」と語るのは、華道家元池坊の次期家元である池坊専好さん。池坊さんは、シニアアドバイザーとして、2025年4月から開催される大阪・関西万博(2025年日本国際博覧会)の開催に向けて尽力してきた。

世界が混沌として先行き不透明な現代だからこそ、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマにする万博の開催は大きな意味を持つという。そこに、いけばなをはじめ文化の果たす役割は大きい。「テクノロジーが人間の代わりをする時代、一人ひとりがどう生きていくのかを自らに問う必要に迫られています。その時、いけばなという文化にその身をさらすことで、生々しい自分に会えます。いけばなを通して自分の心と向き合い、あるがままの自分を知る。それが人との関わり方を考えるきっかけになり、協調や調和も生まれます。今のような時代だからこそ、人間にしかできないいけばな、そして文化の力は大きいと考えています」と意義を語る。

池坊さんは、これまでも伝統文化の世界だけにとどまらず、さまざまなことにチャレンジしてきた。いけばなを公平な視点で学び直したいと、2010年、立命館大学大学院文学研究科に進学したこともその一つだ。多忙を極める中で週3～4日、大学に通った。『『朝練』『夜練』のように、早朝や夜にもよく勉強しました。漢文の文献など読んだことがなかったので、本当に大変で、仕事が楽に思えるほどでしたが、おかげで世代の異なる同級生と仲良くなり、指導を受けた教授ともつながりができました」。大学院を経て、いけばなの世界も人間関係も、大きく広がった。

「文化は、過去からの贈り物であるとともに、自分が未来へと渡していく贈り物でもあります。長い時間の中で誰もが何かを次代に渡しながら生きていく。だから誰の人生にも意味があり、誰もが大切な存在なのです。そのような人が生きる意味に気付かせてくれるのもまた、文化なのではないでしょうか」と語る池坊さん。大阪・関西万博も、また伝統文化も、一過性のものではなく、未来を考える契機であってほしいと願う。「私も初めていけばなに触れた時の気持ちを忘れずに、日々花と向き合いながら、いけばなの力やいのちの素晴らしさを次の世代に渡していきたいと思っています」

撮影：岡田 一也



公益社団法人
2025年日本国際博覧会協会
副会長・理事・シニアアドバイザー
華道家元池坊 次期家元

輝くひと
126

いけのぼう せんこう
池坊 専好さん
(12院文)

■ PROFILE

京都府出身。華道家元池坊の長女として生まれる。次期家元継承者。2012年、立命館大学大学院文学研究科博士課程前期課程修了。2015年、専好を襲名。池坊550年祭バストン・ニューヨークいけばな交流ツアーにて、アメリカの国連本部で献華を行うなど国際的な活動も豊富。紫雲山頂法寺(六角堂)副住職、一般財団法人池坊華道会副理事長、公益財団法人日本いけばな芸術協会副会長。

立命館大学校友会報

りつめい APRIL 2025
No. 296

03 巻頭特集

大阪・関西万博から未来へ

02 輝くひと

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会
副会長・理事・シニアアドバイザー
華道家元池坊 次期家元
池坊 専好さん

08 RITSUMEI INTERVIEW

株式会社人機一体
代表取締役社長
金岡 博士

12 大阪・関西万博に向け活動する 学生 & 生徒たち!

14 125年の挑戦と革新

16 校友会未来人財育成基金

18 つながる、ひろがる 校友会 ～校友会ネットワーク～

21 復興のその先へ

22 学生の活躍

25 キャンバストビックス

29 MIRAIアーカイブス

30 INFORMATION 編集室から

31 海外向けデジタル版移行案内/ 国際平和ミュージアム案内

掲載内容は2025年2月時点のものです。(一部特記箇所を除く)
デザイン・ディライツ広告事務所

| 巻頭特集 |

大阪・関西 万博から 未来へ

2025年4月、

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げた
大阪・関西万博(2025年日本国際博覧会)が開幕する。
万博を通じて得る多様な経験を今後に生かすことが、
より良い未来につながっていく。

今号では、大阪・関西万博にさまざまなかたちで関わり、
次代へ、未来へ、思いを託すべく尽力する校友を紹介する。

撮影：二村 海



万博を契機に世界の国々と つながる未来を創造したい。

大阪府・大阪市万博推進局 企画部 儀典課 担当係長 いしばし あゆみ 石橋 歩さん（'01 国関）

2025年4月13日、大阪・関西万博が幕を開ける。大阪市職員の石橋歩さんは、これまで万博開催に向け、主に海外からの参加国に関わる国際的な業務に携わってきた。

世界に目を向けるようになったきっかけは、中学生の時。親の仕事の都合で2年間、タイのバンコクに住んでいた1992年に、現地で大規模な民主化運動が起こったことだった。それを目の当たりにし、「なぜ、こうしたことが起こるのか」と疑問を持ったことが、後の国際関係学部進学につながった。

大学時代は、ゼミでタイを中心に途上国の政治について学ぶほか、「国際関係学研究会」やオリター活動にも取り組んだ。「自主性が求められる学部で過ごす中で、自分で考えて行動することと、興味を持ったことは自ら貪欲に学ぶという姿勢が身に付きました」。とりわけ4年間で得た国際関係に関する基礎知識は、多様な国の人と関わる今の仕事でも大いに役立っているという。

4回生の時に結婚し、卒業論文を提出すると同時に夫の仕事で渡米する。2人の子どもの生まれ、数年間は専業主婦として過ごした。その後子育てをしつつ、改めて就職先を探すことも考えたが、子育てしながら民間企業で働くのは容易ではないと痛感する。そこで企業ではなく法曹を目指そうと、ロースクールに入学した。司法試験の合格には至らなかったものの「身に付けた法律の知識を生かして人の役に立つ仕事をしたい」と考え、大阪市の採用試験を受験。2010年、32歳で大阪市に入職した。

阿倍野区役所や教育委員会事務局で10年余り勤務した後、転機が訪れたのは2021年。経済産業省の万博関連部署に大阪市職員が派遣されることになり、石橋さんが抜てきされた。「単身赴任になるし、自分に務まるかなという不安はありましたが、やらずに後悔するよりやって後悔した方がいい。思い切って挑戦することにしました」。2021年4月、東京・霞が関に赴いた。

経済産業省では、万博に関わる国際関係の業務に従事した。万博の監督・規制を担う博覧会国際事務局のフランスの本部との連絡・調整のほか、外務省の職員とともに、万博に参加する国々との折衝にも臨んだ。「国を背負い、日本国としてどうあるべきかを考えて各国の代表者と折衝する

外務省の方々の姿が印象に残っています。彼らと一緒に仕事をして、自治体とは異なるより広い視点で考える力が養われ、非常に勉強になりました」。またこれまでにないハードワークも経験した。「午前3時まで仕事をし、入浴と仮眠のために帰宅して午前7時に再び出社したこともあります。前例のない仕事だけに心身共に大変でしたが、『前例がないなら、自分の好きなようにやればいい』と前向きに捉えて取り組んでいました。何より大阪・関西のため、日本のために万博を成功させることに意義があると思うと、頑張りがいがありました」と明るく振り返る。

2023年4月に大阪市に戻ってからは、万博推進局に所属し、万博前や会期中に大阪を訪れる国内外の賓客の受け入れ準備に奔走している。送迎や滞在・移動の行程作成、イベントへの随行・アattendなど、膨大な業務と向き合う毎日だ。「これだけ多くの国の方々が大阪に来られるのは、万博だからこそです。皆さんに気持ちよく日本で過ごしていただき、たくさんの人と交流していただきたい。それが今後、日本と各国との新たな関係をつくることにつながると、大きなやりがいがあります」と語る。国だけでなく、海外の企業の関心の高さも感じているという。

2024年6月、「2025年日本国際博覧会『国際参加者会議2024年夏』」が奈良県で開催された。約160の国や地域、国際機関の万博責任者が情報共有・意見交換をするセッションが行われ、石橋さんも大阪市の担当者として参加した。「160もの国や地域などから、600名近くが一堂に会した光景は、圧巻でした。特に驚いたのは、女性の参加者が多いことです。女性の活躍においては、日本はまだ遅れているなど感じるのと同時に、性別に関係なく誰もが活躍できる社会にしていける重要性も、万博で実感できると思いました」。石橋さん自身が体験したからこそ、「若い人たちに万博会場に来てほしい。実際に多くの国の人と交流し、異なる文化を肌で感じて分かることが、きっとあると思います」と熱を込める。

「万博が終わってからも、大阪市民の皆さんが暮らしやすいだけでなく、国内外から多くの人を訪れるまちをつくっていきたいと思っています」と展望する石橋さん。日本が世界中とつながる未来をつくるために、今後も力を尽くしていく。



PROFILE

愛知県出身。2001年、国際関係学部を卒業後は、夫と共に渡米。帰国後、ロースクールを経て、2010年4月、大阪市に入職。2021年4月から2年間、経済産業省に出向。2023年4月より大阪市万博推進局に勤務。

より新しく、 より面白く、を追求する。

Whatever Co. 取締役 / プランナー / クリエイティブディレクター ^{ふじわら しんや} 藤原 慎哉さん ('03 政策)

大阪・関西万博で、大阪府と大阪市が企業や大学等と共に産学官民一体となって出展する「Osaka Healthcare Pavilion : Nest for Reborn(大阪ヘルスケアパビリオン)」のクリエイティブディレクションをWhatever Co.が担当した。その統合ディレクターを務めるのが、藤原慎哉さんだ。

大学時代は政策科学部。自由な学風の中、教養科目の「プログラミング」など幅広い分野に関心を広げた。3回生からは、教授に掛け合ってAIと都市政策をテーマにした二つのゼミに出席した。「両ゼミで学んで、テクノロジーと社会課題が結び付いた。新しいメディアを活用し、いかに社会の課題を解決していくかを考えるきっかけになりました。それが現在の仕事につながっています」。Whatever Co.のCEOを務める^{とみながゆうすけ}富永勇亮さん('02 産社)とも、立命館大学で出会った。富永さんが在学中に設立に参画したクリエイティブ会社 AID-DCC Inc.のインターン生として仕事をしたのが最初だった。

AID-DCC Inc.に入社後は、企業の広告やプロモーションを数多く手掛けた。2000年代前半は、インターネットが劇的に進化し、社会に急速に普及した時期。「新しいメディアを使って何ができるか、すごく興味が湧きました」と振り返る。ある企業の商品プロモーションでは、街の人に商品を使ってもらい、その反応を撮影した映像をWEBサイト上で公開するという、それまでにはない方法でPRを仕掛けた。結果は、大成功。「コンテンツに力があれば、メディアに関係なく、多くの人に届けることができると実感しました」

2014年、富永さんら数名とともに独立し、2019年、新たにクリエイティブスタジオWhatever Co.に参画。プランナー／クリエイティブディレクターとして、多くのクライアントの課題解決や戦略立案、プロモーション企画に携わってきた。常に前例のないことに挑戦するがゆえに、仕事は困難の連続だ。「数多くの企画を考え、その中から絞りこみ、採用されるのはたった1案だけ。採用されたとしても、思うような結果が出ないリスクもあります。それでも、これまで見たことのない面白いものによって成果が得られた時の喜びは、何物にも代えられません」と目を輝かせる。そうした中で2021年、大阪・関西万博と

いう大きなプロジェクトに携わるようになった。

「大阪ヘルスケアパビリオン」のテーマは「REBORN(リボーン)」。「人」は生まれ変われる”“新たな一歩を踏み出す”という二つの意味が込められている。パビリオンで展示されるのは、未来に実現を目指す、都市生活の姿。ゾーンごとにヘルスケアや医療、食、エンターテインメントなどの未来が描かれる。特に藤原さんがこだわったのは、未来を「実体験」できる展示にすることだ。例えば、来場者はまず「カラダ測定ポッド」に入って、身体情報を測定。その情報から25年後の2050年の姿が生成され、来場者は「ミライのじぶん」と対面できるという。「ミライのじぶん」を見ることで、今の自分の認識や行動を見つめ直してほしい。今を少し変えれば、きっと「ミライのじぶん」が変わるはずだ。自らの新しい一歩が、未来の可能性につながっている。それを体験してほしいと考えています」

制作スタッフだけでも100名を超えるチームを統括する上で藤原さんが心掛けていたのは、「できるだけ早く進むべき方向を具体的に共有すること」「あらゆる情報に精通し、誰に何を尋ねられても答えられるようにしておくこと」だった。「このプロジェクトについて『一番知っている人』として信頼を得ることで、プロジェクトを推進していくことができました」

本パビリオンに出展・協賛する企業や大学、自治体、民間団体は400以上に及ぶ。「組織のリーダーの中には、1970年の大阪万博に参加して、熱気を感じ、未来に希望を抱いたという人も少なくありません。だからこそ今回の万博にも、本気でより良い未来を願って参画されていることを強く感じます」と言う。万博には、世界中の国や企業が、これから先の社会や地球のために思い、知恵を絞って生み出した技術やサービス、アイデアや考え方が結集する。「ぜひ若い人、子どもたちに来場してもらい、そこで体験した記憶を持ち帰ってほしい。それが次代のことを考えるきっかけになれば、うれしいです」

今回の万博を経験したからこそ、「どんなに大きなプロジェクトでも、取り組み方や考え方は同じだ」と実感したという藤原さん。「これからもプロジェクトの大小にかかわらず、『より新しく、より面白く』を追求していきたい」と、思いを新たにしている。

PROFILE

京都府出身。在学中にAID-DCC Inc.でインターンシップを経験。2003年、政策科学部を卒業し、株式会社リクルートスタッフィング入社。2004年、AID-DCC Inc.入社。2014年、同社を独立し、dot by dot inc.(現Whatever Co.)設立に参加。2021年、大阪・関西万博で、Whatever Co.が実行組織「2025年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会」に協力するジョイント・ベンチャーの一員として、「Osaka Healthcare Pavilion : Nest for Reborn」のクリエイティブディレクションを担当することになり、統合ディレクターに就任。<https://whatever.co/>



提供：(公社)大阪パビリオン



「人機」^{じん き}が変える 未来の社会。

株式会社人機一体 代表取締役社長

かなおか はかせ

金岡博士 (教職員校友)

立命館大学ロボティクス学科の教員から転じて株式会社人機一体を起業し、
先端ロボット工学技術を駆使して人の能力を拡張するロボット「人機」の開発に取り組んでいる金岡博士。

大阪・関西万博に、その成果を出展する。

「人機」の社会実装を通じて、どのような社会を実現したいと考えているのか伺った。

撮影：二村 海

子供の頃からロボットに興味があったわけではありせん。大学の専攻は化学工学科。いわゆる石油化学を中心としたバケ学です。博士課程進学時にロボット工学に転向したのも、どうしてもロボットがやりたかったというよりは「消去法で一番マシだった」という、あまり褒められない理由でした。

ただ一貫して興味を持てたのが「制御」です。例えば石油化学プラントでは、温度や時間、量などをコントロールすることによって、省エネルギーで効率良く目的の化学物質を生成します(プロセス制御)。どう制御するかによって、得られる結果が変わる。化学工学で、そうした制御の概念に触れ、「これは面白い」と思いました。化学工学とは扱う物理量や時間スケールは異なりますが、ロボット工学においても制御は極めて重要です。「ロボットをいかに制御してうまく動かすか」。そこに面白さを見いだしたことが、現在の仕事につながっています。

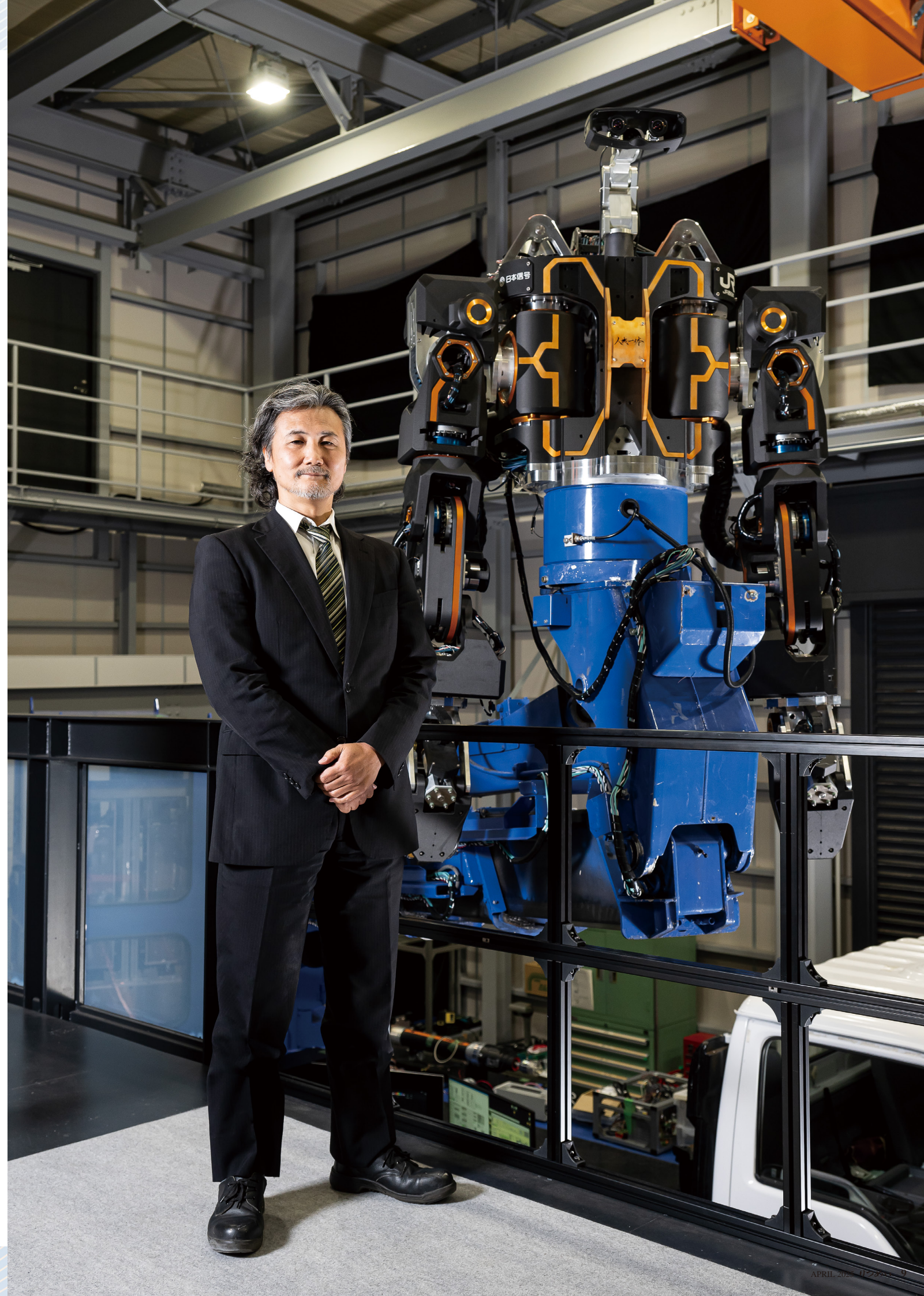
震災で感じた屈辱。 ロボットの社会実装を決意

博士課程を出た時、立命館大学の川村貞夫教授に誘っていただき、理工学部ロボティクス学科に助手として着任しました。立命館大学は産学官連携が盛んで、着任早々さ

まざまな企業との連携のお話をいただくなど、貴重な経験を数多く積むことができました。

しかし、次第に大きくなっていったのが「ロボット研究の『出口』はどこにあるのだろう」という問題意識です。大学で研究されている先端ロボット工学の知見は、実社会のロボットにはほとんど活かされていません。新規性や進歩性を追求する学術研究は、必ずしも社会実装を指向してはいないからです。どれだけ研究しても、それが実社会にアウトプットされないことに大きな問題意識を抱きました。もう一つ心に引っかかったのが「俺はガンダムを作る!」とロボティクス学科に入学してきた学生が、4年後にはロボットとは関係のない企業に就職していくことです。企業でアニメのようなロボットを作ることはできないし、たとえ作れたとしてもビジネスにはならないと知って、諦めてしまうのかもしれない。その現実を見て「ロボティクス学科で学んだロボット工学の知識を、ロボットに関わる仕事に活かしてほしい」と強く思うようになりました。

それでも研究者として、教員として、恵まれた環境にいたことも事実で、当時はキャリアを捨ててまで起業することは考えていませんでした。起業を決意する決定的な一押しになったのが、2011年に発生した東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故でした。



事故直後、非常に高い放射線量の中で緊急・復旧作業に当たったのは、人。こうした場所でこそ活躍するはずのロボットは極めて限定的にしか投入されませんでした。優れていると思っていた先端ロボット工学技術が、災害現場ではほぼ役に立たなかった。ロボット工学の研究者にとって、これほど屈辱的な経験はありませんでした。「この状況を何とかできる『力』が欲しい。それをロボット工学で作ることができるなら、作りたい。次に災害が起こった時、言い訳しないで済むように、先端ロボット工学技術を社会実装しよう」と、覚悟を決めました。そうして2015年、株式会社人機一体を創業しました。

目指すのは人の能力を拡張する「人機」

社名にも込めたように、我々が目指すのは「人機」、すなわち人だけでも、機械だけでも実現できない機能を持った、人が操作するロボットです。私はいわゆるガンダム世代で、あの時代の男子小学生は皆、ガンブラが欲しくてプラモ屋に並んだものです。今思えば、子供心に憧れたのは、非力な少年がロボットに乗ることで大きな力を手にするところ。力のある誰かに助けてもらいたいのではなく、自分が強い力を持って、誰かの役に立ちたい。私が思い描く理想のロボットとは、人の能力を拡張してくれる存在です。それをロボット工学技術で実際に作ることができたら、きっと世の中を変えられると思いました。

そのために開発したのが、独自の「力制御」を可能にする技術です。これにより、人の運動能力をロボットに移し替え、まるで身体が拡張したかのように、ロボットを思い通りにコントロールすることを可能にしました。この技術を用い、西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本)と日本信号株

式会社と共同で、世界初の高所重作業対応汎用人型重機「零式人機 ver.2.0」の開発に挑戦しました。

起業して、研究の枠組みにとらわれることなくロボットの開発に打ち込めることは、非常に楽しいです。もちろんそのためには資金を調達し、それをビジネスにする道筋を作らなければならないという大変さがありますが、それ以上に、先端ロボット工学技術を駆使してロボットの社会実装を目指すことに喜びを感じています。

しかし、他企業との共同開発は簡単ではありませんでした。最も苦労したのはコミュニケーションです。大企業の立場で効率の良い課題解決を目指すクライアントと、ベンチャー企業として高度な汎用ロボットによる広範な課題解決を目指す我々とは、目指す方向は同じはずなのに、なかなか話が通じず、意見は対立してばかり。それが解消されたのは、お互いを知る努力を重ねた結果でした。クライアントの社員が人機一体社に出向し、毎日一緒に仕事をするとともに、責任者も毎週のように来社しては、何時間も議論しました。私たちがクライアントの作業現場に足を運び、現場の言葉に耳を傾けました。その中で次第にお互いの仕事をリスペクトする気持ちが芽生え、相手がなぜそんなことを言うのか、相手の都合や考え方を理解し、寄り添えるようになったことで、徐々に力を合わせられるようになっていきました。

2024年7月20日、ついに製品版の多機能鉄道重機が営業線での鉄道設備メンテナンスの実作業に導入され、社会実装が現実となりました。

万博で描くロボットの社会実装

2025年4月に開幕する大阪・関西万博で、人機一体社

の開発成果を出展する予定です。実は万博に参画するのは2回目。立命館大学に在籍していた2005年、「愛・地球博」内で開催された「プロトタイプロボット展」で、当時最新の研究成果を出展したことがありました。私たちの他にも多くの企業・大学から67種類のロボットが出展されましたが、今振り返ってみても、実用化されているロボットはほとんどありません。2020年に実用化されると期待されるロボットを集めたにも関わらず、です。あれから20年。大阪・関西万

博では、ここまでロボット工学技術を進展させてきたという成果を見せたい。今度こそ、社会に役立つロボットの社会実装を実現したことを発信したいと考えています。

20年前、日本のロボット工学は世界の先頭を走っていましたが、いまや先頭集団に後れを取っています。今回の万博は「日本のロボット工学は、まだまだ捨てたものではない」と示すチャンスです。まずは我々の0→1の事例をキッカケに、ロボットの社会実装が次々と広がっていく。そんな未来につながればいいと思っています。

人機の用途は、インフラメンテナンスだけにとどまりません。例えばロボットに高性能カメラを装着すれば、遠い所や暗い所も見えます。AIのサポートによって、人にはできない緻密な作業を行うこともできます。人に超能力はありませんが、私たちの技術があれば、ロボットを直感的に操り、まるで超能力が備わったかのように、人の能力を大きく拡張することができます。その実現のためには、他企業と連携し、多くの技術を結集する必要があります。現在は、そのベースとなる独自ビジネスモデル「人機プラットフォーム」の構築を進めているところです。人機がビジネスになり、社会のあらゆる場所で日常的に使われるようになって初めて、災害のような有事にも役立ちます。人機なら将来、コンピューターや自動車に匹敵する規模で、日本が世界でイニシアチブを発揮する産業になることも可能です。

大きな夢や理想はありますが、私の研究開発のモチベーションの原点は、人の役に立つものを作って「褒められた



い」という単純な思いでした。かつては「マンガ」や「オモチャ」と思われていたロボットで社会の役に立ち、産業を創出し、世の中を良くすることができたら、少しは社会から褒めてもらえるんじゃないか。そんなふうに思っています。

大阪・関西万博 出展情報

東日本大震災からのよりよい復興

日程：2025年5月19日(月)～5月24日(土)
会場：EXPOメッセ「Wasse」



Resona Mirai Color

日程：2025年9月9日(火)～9月15日(月)
会場：大阪ヘルスケアパビリオン



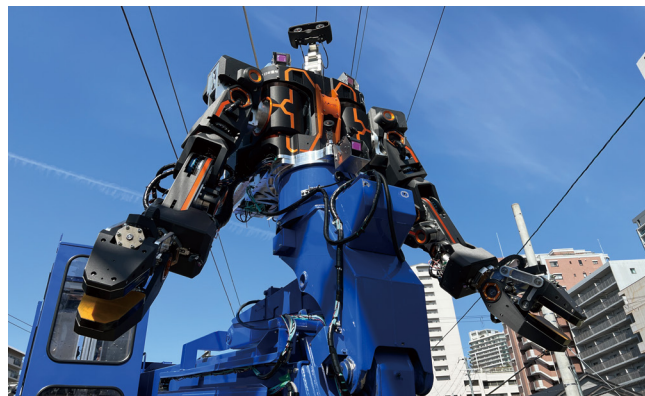
PROFILE

株式会社人機一体 代表取締役社長

金岡博士

大阪府出身。2002年、京都大学博士(工学)取得。立命館大学理工学部ロボティクス学科助手を経て2003年、理工学部ロボティクス学科講師に就任。力学ベースのロボット工学技術について研究開発。2008年、総合科学技術研究機構ロボティクス研究センター客員教授に就任。2015年、立命館大学発のスタートアップとして株式会社人機一体を設立。ビジネスモデル「人機プラットフォーム」を考案し、人機の社会実装に取り組んでいる。

“ ロボティクス学科で勉強した人が、
その知識をロボット産業で活かせる。
そんな未来を創ります ”



JR西日本、日本信号と共同開発した零式人機 ver.2.0



多機能鉄道重機(零式人機 ver.2.0 をベースとした日本信号による製品)の初導入
(写真提供：JR西日本)

立命館大学万博学生委員会「おおきに」とは……

大阪・関西万博への参画を学生の学びと成長の機会にすべく、2023年4月に発足。16学部から200名超の学生が所属。「未来への挑戦」をミッションに掲げ、社会課題に対する解決策の提案など、学生と地域・企業などをつなぐ架け橋として活動中。



学生にしかできないことを 思いっきりやる！

代表として、「おおきに」内外問わず、おおきにの活動や万博の楽しさを、より多くの人に伝えていきたいです！

高木葵風さん(総合心理2)
おおきに代表

万博出展を成し遂げ、メンバー全員が 自らの成長を実感できるようにしたい！

代表として全てが挑戦の連続。周囲の人を巻き込み、多くの人と連携しながら物事を進める力が身に付いたと思います。

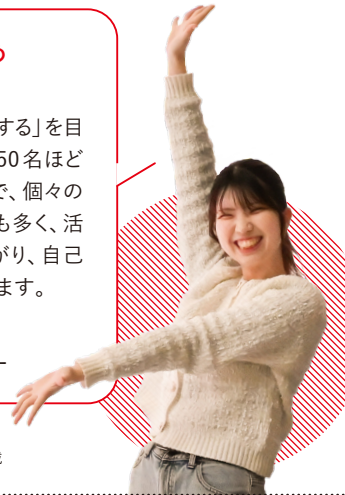
法貴彬斗さん(経済3) おおきにBKC代表



「食問題」への関心を高め 「未来の食卓」を考える！

「持続可能な食卓形成に寄与する」を目標に活動しています。食班は50名ほどメンバーがいる大所帯なので、個々の意見を聞く中で、新しい発見も多く、活動を通して自分の視野が広がり、自己成長につながったと感じています。

七野あかねさん(政策2)
おおきに 食班 SusTable リーダー



コミュニケーションの壁を越えろ！

コミュニケーションにおける誤解や不十分な理解によるフラストレーションを自ら認識し、今後に生かせるワークショップ企画を実施しています。私自身、人前で話すことが苦手でしたが、「おおきに」の活動を通して発言力が高まったと感じています。

南瑠菜さん(経営2)
おおきに コミュニケーション班
CWA リーダー



左：学内外のイベントに参加しワークショップを実施。立命館が協賛する「いのちの遊び場 クラゲ館」での出展を目指し、各班、企画をブラッシュアップ中
右：「いのちの遊び場 クラゲ館」プロデューサーの中島さち子氏自らメンタリングを行い、学生の成長を後押し



万博は絶好の 成長の機会

大阪・関西 万博に向け 活動する学生 & 生徒たち！

〔期間〕2025年4月13日(日)～10月13日(月・祝) 〔会場〕大阪 夢洲

みんなで手を取り合い 遊びを通して異文化体験！

異文化による誤解は不変のテーマ。遊びを通し、多くの人に異文化を理解してもらい、世界中の人々をつなげたいと思っています。

平山翔太さん(経営1)
おおきに
多様性・異文化理解班
遊びでつなぐリーダー



「おおきに」以外のRU、APUの学生、 附属校の生徒も万博会場での出展を目指し活動中！

クラゲ館をはじめ、大阪ヘルスケアパビリオンのステージ、EXPOメッセ「WASSE」などさまざまな会場で「おおきに」以外の学生、生徒も大勢参画予定！

茶の湯の心を伝えて世界中の方と 一期一会の時間を過ごしたい！

単なるパフォーマンスにとどまらず、茶道における「おもてなし」の心や文化に触れてもらいたいの、多言語対応と同時にノンバーバルで神髄を伝えたいです。

志水紗衣さん(経済3)
茶道研究部 万博企画リーダー



「面白かった！」と思ってもらえる 謎解き企画を創りたい！

世界単位の大きなイベントに関わることはほぼないので、万博実行委員長としてしっかり責任を持って「謎解きクエスト」企画をまとめ、進めていきたいです！

奥田百麻さん(立命館守山中学校2年生)
万博実行委員長



大阪・関西万博開

立命館大学万博学生委

万博会場での企画実施を目指す

世界中から多くの人が

学生たちにとって

大阪・関西万博

学生&生徒たちの

幕まであとわずか！

員会「おおきに」をはじめ、

し、活動している団体があります。

訪れる一大イベントは、

絶好の学びの機会。

を機に成長する

声をお届けします。



「日本一感動を与える応援団」が目標。 期待を超えるステージにしてみせます！！

一生に一度あるか無いかの特別な舞台でパフォーマンスできるのが本当に楽しみ。来場者に元気を届けられるよう全力で取り組みます！

墨田園子さん(文3)
応援団吹奏楽部 部長

幸運、繁栄、団結を象徴する獅子舞。 伝統文化を楽しんでもらいたい！

万博に出展する他国との文化交流を通して、自身の表現力や創造性、文化理解も深めたいです！



LEE YING HUIさん
(APU 国際経営2)
APU 獅子舞
龍舞サークル
副代表

※役職、回生、学年は2024年度時のものを記載

立命館関連企画 \ 児童、生徒、学生の学びと、さまざまな研究成果が万博会場に集結！ /

いのちの遊び場 クラゲ館 ①

- 万博学生委員会「おおきに」によるワークショップ企画(日程未定)
- 「育てる里山プロジェクト」メンバーによるワークショップ企画(日程未定)
- 附属校の児童、生徒によるワークショップ企画(日程未定)
- 守山中学校3年生による謎解きクエスト(日程未定)

ギャラリー WEST ②

- 「ごみ祭り」にて学生によるワークショップ(2025年5月3日)

ウーマンズ パビリオン ③

- RU&APUの教員、学生によるトークイベント(2025年6月1日・8月6日)
- カルティエ×筑波大学×RUによるDE&Iトーク企画(2025年8月2日)

EXPOメッセ「WASSE」 ④

- 「日本国際芸術祭」での研究展示(2025年7月2～6日)
- 立命館大学ESEC*による宇宙展(2025年8月8・9日)
*ESEC…立命館大学宇宙地球探査研究センター
- APUの学生によるマルチカルチュラルショー(日程未定)
- 立命館小学校の児童とRUの留学生在交流するワークショップ(2025年8月8・9日)

大阪ヘルスケアパビリオン ⑤

- 立命館学園創立125周年ステージ企画「オール立命館 Try Field in EXPO」(2025年10月5日)
- フューチャーライフエクスペリエンス &「TEAM EXPO パビリオン」 ⑥
(通期：ベストプラクティスエリア展示、2025年9月8・9・10日：ブース展示、2025年9月20日：展示・ステージ発表)

- カーボンマイナスプロジェクト(依田祐一教授ゼミ他)
(通期：ベストプラクティスエリア展示、2025年9月8・9・10日：ブース展示、2025年9月20日：展示・ステージ発表)
- 西菱電機株式会社×豊田祐輔准教授(監修)「未来の防災体験」展示(2025年5月13日～19日)

サステナードーム ⑦

- カーボンマイナスプロジェクトチームによる「ジュニアSDGsキャンプ」(日程未定)

テーマウィークスタジオ ⑧

- 附属校の生徒&RUの学生×諸外国・他大学の生徒、学生によるトーク企画「EXPO 2025 Special "World Student Discussions"」(2025年8月7日)

※会場、企画名、日程は変更になる可能性があります。実施日程が未定の場合は決定次第、右ページの立命館のサイト(二次元コード)で公開します。



提供：2025年日本国際博覧会協会
画像はイメージです。実際の会場とは配置・建物形状が一部異なる場合がございます。また本画像の無断転載・複製は一切お断りします。

©steAm Inc. & Tetsuo Kobori
Architects All Rights Reserved

大阪・関西万博に関する情報はコチラ！



立命館における大阪・関西万博に関するお問い合わせは

立命館万博連携推進本部(事務局：OIC 地域連携課)
oiclec@st.ritsumei.ac.jp

125年の挑戦と革新

——未来を切り拓く立命館の歩み

1900年、鴨川の西岸三本木町の料亭「清輝楼^{せいきろう}」において、西園寺公望の秘書であった中川小十郎が立命館大学の前身となる「私立京都法政学校」を設立し、向学の志を抱いた勤労学生を対象に開講してから、間もなく125年。

立命館は「次世代研究大学」「次世代探究学園」となる目標を掲げ、社会に新たな価値を創り上げていく壮大なチャレンジを推し進めています。それはまさに、建学の精神である「自由と清新 Freedom and Innovation」を体現するものといえます。

自由な発想で、普遍的な価値の創造と人類諸課題の解明に邁進^{まいしん}し、広く内外の協力と支援を得ながらそれらの課題の解決に取り組んでいく。

私学立命館は、多様な挑戦的取り組みの実現を通じて、社会や世界のために真に貢献する学園、すなわち「Social Impactを創出する学園(Ritsumeikan for Social Impact)」として存立する基盤づくりに挑んでまいります。



立命館創始155年・学園創立125周年記念事業についてはこちら



私塾「立命館」創始
学祖・西園寺公望が、20歳の若さで私塾「立命館」を創設。

1869



「京都法政学校」創立
創立者・中川小十郎が「私立京都法政学校」を創立。

1900

1913

立命館大学と改称
西園寺の許諾を得て、大学を「私立立命館大学」と改称。



BKCを開設
滋賀県草津市にびわこ・くさつキャンパス(BKC)を開設し、理工学部を拡充移転。

1994

1981

広小路から衣笠へ全面移転
広小路学舎から衣笠キャンパスへの全面移転。



APUを創立
大分県別府市に2つ目の大学となる立命館アジア太平洋大学(APU)を開学。

2000

2015

OICを開設
大阪府茨木市に大阪いばらきキャンパス(OIC)を開設し、社会連携の新拠点



宇宙地球探査研究センター(ESEC)を設置

宇宙に関する新しい知識や現象を発見することを目的とした「発見型の宇宙探査」ではなく、生活圏構築に向けたインフラ整備や資源開発などの「探査の展開・生存圏の構築」にフォーカスを当てた、日本初の研究組織。

2023

2024

情報理工学部・研究科および映像学部・研究科がOICへ移転
2学部2研究科の移転を機に、「ソーシャルコネクティッド・キャンパス」へ改革。学術研究・教育・産業界をつなぎ、地域社会の発展を支えるプラットフォームとして新たな展開を迎える。

今年の「オール立命館校友の集い」は立命館創始155年・学園創立125周年記念式典と同日開催！

立命館創始155年・学園創立125周年 記念式典／オール立命館校友の集い2025
日程：2025年10月18日(土) 会場：国立京都国際会館 ※概要については次号会報に掲載予定



立命館創始155年・学園創立125周年記念 Social Impact 基金寄付募集を開始！

立命館創始155年・学園創立125周年を記念して、この期間だけの特別な返礼品(立命館オリジナルグッズ)等も用意した「立命館 Social Impact 基金」寄付募集を実施します。ぜひ、皆様の思いをお届けいただき、学園の研究・教育・学生の活動をご支援ください。

立命館 125周年 ご寄付のお願い

プロジェクトの詳細・申込みについてはこちら



〈立命館オリジナルグッズ一例 ※イメージ〉
※数量・時期によって変更となる場合があります。

デザイン・アート学部、
デザイン・アート学研究科(仮称)
開設予定

歴史・文化都市「京都」にある総合大学の強みを活かし、衣笠キャンパスに未来志向の新たなデザイン学の追求とアートの技術と感性を基盤にした自然科学と人文・社会学領域を横断した教育・研究の展開を構想中。



2026

2025

先端クロスバースイノベーションコモンズ(CVIC)およびグラスルーツ・イノベーションセンター(GIC)開設予定
CVICは「身体圏」研究を推進する学際共創拠点、GICは企業・自治体と連携しSTEAM教育を通じたイノベーション人材の育成と起業・事業化を促進する施設。





「校友会未来人財育成奨励金(団体支援)」が 学生の学びのフィールドを広げています



〔奨励金採択テーマ〕

環境問題についての発信および 部活動におけるリサイクル循環

立命館大学万博学生委員会「おおきに」環境班 代表 清水 優香さん(文3)



「おおきに」だからこそできる社会課題の解決と未来社会の創造

立命館大学万博学生委員会「おおきに」について

立命館大学万博学生委員会「おおきに」は、大阪・関西万博への参画を通して、学生が学び、成長できる場として、2023年4月に発足し、16学部から約100名の学生が活動しています。環境、食、コミュニケーション、多様性・異文化理解、日本文化などのテーマ別の班に分かれて社会課題の解決を考える部門と、執行部、広報、会計などの運営を担う部門があります。回生問わず仲が良く、班の取り組みを良いものにするため意見を出し合い、互いに高め合っています。

環境班の目標と活動

私が所属している環境班は、「全ての人に環境問題を自分ごととして捉えてもらう」ことを目標に活動しています。元々は、「環境問題を知ってもらうきっかけを提供する」という目標を掲げていましたが、その後の1年間の活動を経て、より環境問題の解決につな

がる活動にしたいという考えに至り、「自分ごととして捉えてもらう」という、さらに上のステップの目標を掲げることになりました。環境班を結成した当初は、ポスターセッションをしたり、ボードゲームであるすごろくを使って幅広い環境問題について取り扱ったりしました。2年目では、継続して大学内のイベントに参加し、ものづくりを加えたワークショップや、参加者がアナウンサーになり環境問題に対する自身の行動宣言を発信するワークショップを行いました。また、大学外のイベントである「ごみ祭り」において、立命館大学の他団体と一緒に、遊びながら環境について学べるワークショップを実施しました。



今後の私たちの取り組み

そして、現在私たちは4月から開催される大阪・関西万博のシグネチャーパビリオンの一つ「いのちの遊び場 クラゲ館」に出展し、ワークショップを実施することを目指して、日々活動しております。どうすれば社会に生きる一人ひとりが、環境問題を自分ごととして捉え、継続的に活動を続け、より良い社会を構築することができるのか、そのために私たちはどのように働きかけることができるのか、それを追い求めています。環境問題と一言で言ってもさまざまな要因が複雑に絡み合い、また、今取り組んでも実際に結果が出るのはかなり先です。しかし、未来に生きる人間をはじめとした全てのいのちが住みやすい地球を創ることができるのは、今を生きる私たちです。大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現させるためにも、私たち「おおきに」と一緒に社会課題の解決への一歩を踏み出してみませんか。万博会場でお会いできることを楽しみにしています。これからも応援をお願いいたします。



支援を受けた
学生の声は
こちら



<https://alumni.ritsumeijp/gift/student-voice/>

TOPICS

特別募集のお礼とご報告

立命館大学校友会では「オール立命館校友の集い2024」の開催を記念して、2024年7月1日から11月30日までの間、『校友会未来人財育成基金』特別募集を行いました。

皆さま方からご支援をいただき、2024年度特別募集は総額**9,450,208円**のご寄付をいただきました。ご支援くださいました皆さまに厚く御礼申し上げます。 ※2024年12月31日時点



今回の特別募集にご支援くださいました皆さまの
ご芳名をWeb芳名録に掲載させていただきました。
引き続き、温かいご支援・ご協力を
何卒よろしくお願い申し上げます。

Web芳名録はこちら！

<https://www.ritsumeijp/giving/gratitude/benefactorslist/>



校友会未来人財育成基金の実績
(2024年12月31日時点)

5,340の個人・団体・法人から **362,656,696円**

募集要項

■ 寄付の金額

(1) 個人・団体(校友会などの任意団体)の場合
ひと口1,000円からご支援いただけます(一括寄付と継続寄付[毎月・年2回・毎年]のどちらも可能です)。

(2) 法人の場合

ひと口の金額は特に定めておりません。

■ 募集期間

期間に定めはありません。

■ 活用プラン

海外留学支援、成長支援、課外活動支援、研究支援、施設整備支援など。

■ 税制上の優遇措置について

本寄付は学校法人立命館に対する寄付金となり、税制上の優遇措置を受けることができます。

申込方法

① WEBで申し込む

校友会未来人財育成基金特設サイトよりお申し込みください。簡単な手続きで完了いたします。クレジットカードにてご寄付いただけます。



スマートフォンからのアクセスはこちら！
<https://alumni.ritsumeijp/gift/>

② 書面で申し込む

立命館大学校友会事務局に資料をご請求ください。銀行振込・口座振替にてご寄付いただけます。

お問い合わせ先 (受付時間 土日祝を除く 9:30~17:00)

校友会未来人財育成基金に関しては

寄付の受け入れ、税制上の優遇措置に関しては

立命館大学校友会事務局

立命館 総務部 寄付事務局

075-813-8216

075-813-8110

寄付者
特典

「校友会未来人財育成基金」へのご寄付累計額が2万円に到達した方に
随時「立命館 Futurize.バッジ」をお送りします。
※2023年7月27日以降のご寄付が対象です。



つながる、ひろがる 校友会

～校友会ネットワーク～



各校友会の活動や
今後のイベント予定は
校友会ホームページを
ご覧ください



行事報告

※2025年2月までに行われた各団体の行事の一部を紹介しています。



2024/11/2(土)
富山県校友会「校友の集い」
パレプラン高志会館



2024/11/2(土)
山口県校友会 総会
防長苑



2024/11/8(金)
鳥取県東部校友会 総会
ホテルモナーク鳥取



2024/11/16(土)
大分県校友会 総会
大分センチュリーホテル



2024/11/16(土)
鹿児島県校友会「校友の集い」
鹿児島サンロイヤルホテル



2024/11/23(土・祝)
千葉県校友会 総会
市川グランドホテル



2024/11/9(土)
福岡県校友会 総会「校友の集い」
ホテルフジタ福岡



2024/11/9(土)
宇部小野田校友会 総会
国際ホテル宇部



2024/11/9(土)
愛媛県校友会 総会
ANAクラウンプラザホテル松山



2024/11/23(土・祝)
広島県東部校友会 総会
福寿会館・福山城



2024/11/24(日)
岐阜県校友会 総会
ホテルグランヴェール岐阜



2024/11/30(土)
石川県校友会 総会
金沢ニューグランドホテル



2024/11/9(土)
沖縄県校友会 総会
メルキュールホテル沖縄那覇



2024/11/10(日)
滋賀県校友会 総会
立命館大学びわこ・くさつキャンパス



2024/11/16(土)
愛知県校友会「イヤーズミーティング」
名鉄グランドホテル



2024/11/16(土)
奈良県校友会 総会
奈良県コンベンションセンター



2024/11/16(土)
鳥取県西部校友会 総会
米子ワシントンホテルプラザ



2024/11/16(土)
福岡県校友会「オール立命館福岡県校友のつどい」
ソラリア西鉄ホテル福岡



2024/11/16(土)
佐賀県校友会「オール立命館佐賀県校友のつどい」
HOTEL グランディアはがくれ

日程	校友会・グループ	会場
2024/11/2(土)	長野県校友会中信地区会 総会	ファインビュー室山
2024/11/3(日・祝)	愛媛県校友会今治支部 総会	今治地域地場産業振興センター
2024/11/9(土)	北摂校友会 総会	千里阪急ホテル
2024/11/9(土)	技術士会 交流・懇親会	中央電気倶楽部
2024/11/9(土)	硬式庭球同好会「OB・OGの集い」	ホテル京阪 京都 グランデ
2024/11/10(日)	経済学部同窓会 総会	立命館大学びわこ・くさつキャンパス
2024/11/10(日)	スポーツ健康科学部・研究科ホームカミングデー	立命館大学びわこ・くさつキャンパス
2024/11/10(日)	滋賀銀行比叡会 総会	立命館大学びわこ・くさつキャンパス
2024/11/16(土)	理工学部土木工学科大同研究室OB会	都ホテル 京都八条
2024/11/16(土)	証券研究会OB会総会	京都ガーデンパレス
2024/11/20(水)	尼崎市役所比叡会50周年記念 総会	ホテルヴィスキオ尼崎
2024/11/21(木)	立命館スポーツフェロー「理事長・総長を囲む集い」	ホテルグランヴィア京都
2024/11/23(土・祝)	高槻島本校校友会 総会	ホテルアベストグランデ高槻
2024/11/30(土)	関東建設会 総会	大手町サンケイプラザ
2024/12/1(日)	出版立命会 総会	京都ガーデンパレス
2024/12/14(土)	京都府庁衣笠会 総会	東華菜館
2025/1/17(金)	八尾市役所立八会 総会	割烹成鯛
2025/1/24(金)	建設会三重県支部 総会	プラザ洞津
2025/1/25(土)	北朋会(北海道教育関係者の会) 総会	ホテルライフオート札幌
2025/2/8(土)	群馬県校友会 総会	LABIバンケット高崎
2025/2/8(土)	和歌山県校友会 総会	ホテルグランヴィア和歌山
2025/2/9(日)	立命館スポーツフェロー「体育会歓送会」	ホテルグランヴィア京都
2025/2/15(土)	ユネスコ研究会OB会 総会	立命館大学衣笠キャンパス

※2025年1月15日時点で事務局に寄せられた情報に基づき掲載しています。



つながる、ひろがる 校友会 ～校友会ネットワーク～

今後の行事予定 ※2025年4月～11月に開催が予定されている総会等を紹介しています。

日程	校友会・グループ	会場
2025/4/12(土)	石川県校友会 例会	金沢ニューグランドホテル
2025/5/24(土)	北海道校友会 総会	ACU-A
2025/5/24(土)	東北道校友会 総会	十勝ガーデンズホテル
2025/6/14(土)	山梨県校友会 総会	アーバンヴィラ古名屋ホテル
2025/6/28(土)	山形県校友会 総会	山形国際ホテル
2025/7/5(土)	大阪校友会 総会	立命館大学 大阪いばらきキャンパス
2025/7/12(土)	岩手県校友会 総会	ホテルニューカリーナ
2025/7/26(土)	香川県校友会 総会	ホテルパールガーデン
2025/8/23(土)	静岡県校友会 総会	クーポール会館
2025/8/23(土)	岡山県校友会 総会	アークホテル岡山
2025/9/20(土)	長崎県校友会 総会	サンプリエール

日程	校友会・グループ	会場
2025/9/27(土)	高知県校友会 総会	得月楼
2025/10/5(日)	宮崎県校友会 総会	フェニックス・ シーガイア・リゾート
2025/11/8(土)	山口県校友会 総会	セントコア山口
2025/11/9(日)	東京校友会 総会	品川プリンスホテル
2025/11/15(土)	佐賀県校友会 総会	HOTEL グランデはがくれ
2025/11/15(土)	大分県校友会 総会	大分センチュリーホテル
2025/11/22(土)	岐阜県校友会 総会	ホテルグランヴェール岐山
2025/11/22(土)	鹿児島県校友会 総会	鹿児島サンロイヤルホテル
2025/11/29(土)	石川県校友会 総会	金沢ニューグランドホテル
2025/11/29(土)	福岡県校友会 総会	オリエンタルホテル福岡 博多ステーション

※2025年1月15日時点で事務局に寄せられた情報に基づき掲載しています。

校友会 TOPICS

立命館宇治高校にて、 キャリア企画「授業+ R 2024」を実施

12月11日、14日の2日間にわたって、立命館宇治高校に通う2年生を対象にキャリア企画「授業+ R 2024」を実施しました。「大学生授業」では、「校友会未来人財育成奨励金」を受給し課外活動に取り組む学生など、11名の大学生が授業を行い、「社会人授業」では、若手校友11名による授業を実施。起業、コンサルタント等、多様な職種の校友が集いました。生徒からは、「目標の達成方法」「語学力を伸ばす方法」など自分の進路と重ねた質問がありました。この企画を機に、立命館大学校友会を知る校友も多く、若手校友同士の交流も深まりました。

上：大学生講師による授業風景 下：若手校友の講師



校友会 TOPICS

富士山女子駅伝を現地で応援

12月30日に開催された2024全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)において、女子陸上競技部が2時間21分9秒の大会新記録で7年ぶり6度目の優勝を果たしました。全日本大学女子駅伝対校選手権大会(杜の都駅伝)に続き、学生女子駅伝2冠を達成。沿道では、静岡県校友会をはじめとする全国から集まった校友や大学関係者などが、のぼりを立てて選手に声援を送りました。



復興への願い

復興のその先へ 被災地はいま。

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」から1年が経過しました。
“被災地のいま”を各校友会からお届けします。

令和6年元日に発生した能登半島地震から1年が経過しました。発災直後から校友会の皆さま方、そして全国の皆さま方からの心温まるご支援、ご声援にただただ御礼申し上げます。今は人とのつながりに感謝しながら日々を送っています。

私は発災当時も今も震源地に近い石川県輪島市にある市立輪島病院で事務部長をしております。病院は住民の生命を守るためにも、いっときも休むことがあってはなりません。そのことを胸に、ライフライン断絶、病院内医療機器の倒壊と損壊、院内配管の破損と漏水など、壮絶を極める中での震災負傷者対応、市内介護施設全滅を補完するための院内介護施設立ち上げ、職員を守るための福祉厚生策実施など、数えきれないほどの対策を職員とともに実行し、3カ月後には院内応急復旧を達成できました。



一方、市内は復旧さえもまだままだの状況です。この先何年、いや何十年かかるか分かりませんが、それでも私たちは前だけを見据え、一つずつ課題に向き合っていきます。

被災地で生活続ける私たちが最も恐れていることは、このことが時とともに風化し、皆さんの記憶から消えていくことです。校友会の皆さまにおかれましては、折に触れてご家族ご友人とこの話をしていただければ願っています。最後になりますが、私も自費出版した書籍とともに、微力ながらこの経験を後世に語り継いでまいります。

河崎 国幸('92法)



自費出版『能登半島地震発生直後からの手記』



損壊した検査室



災害派遣医療チーム(DMAT)との打ち合わせの様子

～災害救援ボランティアとして能登半島を訪れた学生より～

能登半島の復興に少しでも力になりたいと思い、災害救援ボランティアに参加しました。作業は、民家に流れ込んだ土砂や災害廃棄物の撤去が中心でした。地震発生から1年が経過しましたが、当時の爪痕が今も深く残っており、地震だけでなく水害の影響の大きさも痛感しました。初めは先の見えない不安を感じていましたが、作業を進めるうちに、私たちの行動が現状を少しずつ変え、それが必ず復興につながることを確信し、強い意志を持つことができました。今後も現地へ行き復興の支援をしていきたいと思います。

友松 皇太(法4)





最新情報は
こちらを
チェック！

SPORTS

※掲載中の所属・年生などは開催時点のもの

女子陸上競技部

10月5・6日の両日、国立競技場(東京都)で「第108回日本陸上競技選手権大会・リレー競技」が開催され、女子陸上競技部が4×400mリレーで優勝、4×100mリレーでは4位入賞を果たしました。

10月27日、「第42回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(杜の都駅伝)」が宮城県仙台市で開催され、女子陸上競技部が9年ぶり11度目の優勝を果たしました。

12月30日、「2024全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)」が開催され、女子陸上競技部が2時間21分9秒の大会新記録で7年ぶり6度目の優勝を果たしました。

相撲部

10月13日、山城総合運動公園体育館(京都府)で開催された「第29回全日本女子相撲選手権大会」にて柴田歩乃佳選手(経営4)が65キロ未満級で準優勝しました。また柴田選手は、京都府Aチームの一員として出場した団体戦においても3位入賞に貢献しました。

射撃部

10月16～20日、能勢町ライフル射撃場(大阪府)で「全日本学生スポーツ射撃選手権大会(男子第71回・女子第37回)」が開催され、射撃部がSB女子団体で初優勝しました。

ホッケー部(女子)

10月31日～11月4日、大井ホッケー競技場(東京都)にて、学生ホッケー日本一のタイトルを争う「第73回男子・第46回女子 全日本学生ホッケー選手権大会(インカレ)」が開催され、ホッケー部(女子)が2年連続・7回目の優勝を果たしました。

軟式野球部

軟式野球部が「第47回全日本大学軟式野球選手権大会」で見事初優勝を果たしました。本大会は11月12～17日に大阪府の4会場で開催され、全国から23チームが参加しました。

弓道部

11月25・26日、神宮弓道場(三重県)にて「全日本学生弓道王座決定戦 第48回女子の部」が開催され、弓道部が見事優勝を飾りました。

日本拳法部

12月1日、エディオンアリーナ大阪(大阪府)で、「第69回全日本学生拳法選手権大会」が開催されました。日本拳法部が女子の部で2年連続の優勝を果たしました。

アメリカンフットボール部

12月15日、阪神甲子園球場(兵庫県)にて全日本大学アメリカンフットボール選手権決勝「甲子園ボウル」が開催され、アメリカンフットボール部PANTHERSは法政大学ORANGEとの激闘を制し、45対35で日本一の栄冠に輝きました。

馬術部

10月31日～11月4日、「第74回全日本学生賞典障害馬術競技大会」にて、福岡ゆきは選手(映像1)・龍駕Ⅱが、馬術部初となる個人優勝の快挙を成し遂げました。



1 提供/月刊陸上競技



3 提供/月刊陸上競技



2 提供/月刊陸上競技



4



5



8



6



7



9



11 全日本学生馬術連盟提供



10 撮影/アフロスポーツ



10 撮影/アフロスポーツ



12



13



15



14



16

CULTURE

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

将棋研究会

9月18～20日、さいたま商工会議所(埼玉県)で「トリブルアイズ杯争奪 第20回全国大学対抗将棋大会」が開催され、将棋研究会が優勝。昨年に続き大会2連覇を果たしました。

12

学生将棋の団体日本一を懸けた「第55回全日本学生将棋団体対抗戦(学生王座戦)」が、12月24～26日に四日市市文化会館(三重県)で行われ、将棋研究会が見事優勝を果たしました。

13

応援団吹奏楽部

10月26日、札幌コンサートホールKitaraで「第72回全日本吹奏楽コンクール」(全日本吹奏楽連盟、朝日新聞社主催)大学の部が開催され、応援団吹奏楽部が出場。昨年に続き2年連続で金賞の栄冠を勝ち取りました。

14

バトントワリング部

12月7・8日の両日、幕張メッセ(千葉県)にて「第52回バトントワリング全国大会」が開催されました。学校部門・大学バトン編成で、バトントワリング部が最優秀賞を獲得し、大会4連覇を果たしました。

15

書道部

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)の大屋根リング記念式典において、書道部の植木莉穂さん(産社3)と高宮菜央さん(食マネ3)が書道パフォーマンスを披露しました。

16

「世界のトップ2%の科学者」に
立命館大学から36名がランクイン

9月17日、米国スタンフォード大学とエルゼビア社による「世界のトップ2%の科学者」を特定する包括的なリスト「標準化された引用指標に基づく科学者データベース」が更新され、立命館大学から36名の科学者が選出されました。立命館大学は、世界各国のさまざまな研究分野の科学者や機関と連携し、今後も世界トップ水準の研究成果を生み出していきます。

総合科学技術研究機構長谷川知子教授
令和6年度「京都府あげぼの賞」を受賞

9月27日、総合科学技術研究機構の長谷川知子教授・RARAフェローが、令和6年度「京都府あげぼの賞」を受賞することが発表されました。同賞は、各分野で著しい功績を挙げた、京都にゆかりのある女性やグループに授与されるものです。11月2日、「第36回KYOのあげぼのフェスティバル2024」にて表彰式が行われ、西脇隆俊京都府知事より表彰状と副賞が贈呈されました。

「性被害やつつけたるわファミかるたSNS編」が
2024年度グッドデザイン賞を受賞

10月16日、2024年度のグッドデザイン賞(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)が発表され、立命館大学デザイン科学研究所と株式会社アイシンが共同開発した「性被害やつつけたるわファミかるたSNS編」が「研究・開発手法」カテゴリでグッドデザイン賞を受賞。本取り組みでは、産学連携PBL(課題解決型学習)を通じて、社会課題の解決と社会的インパクトの創出に挑みました。

1

アジアとつながる国際交流フェスタ
「Asia Week 2024」を開催

10月20日、大阪いばらきキャンパスにて、国際交流や異文化理解を目的とした地域交流イベント「Asia Week 2024」を開催しました。当日は、国際交流活動を行う学生団体などが参加したほか、和歌山県にある「アドベンチャーワールド」と生中継でつなぎ、パンダの不思議と魅力を伝える講演が催されるなど、70を超える企画・出展が行われ、約5,000名の市民の方々に楽しんでもらいました。

国際平和ミュージアムのイベント
「国連事務次長講演会」を開催

11月1日、立命館大学国際平和ミュージアム(以下、ミュージアム)は、中満泉国連事務次長を招き、講演会を開催しました。ミュージアムは、2023年にリニューアルされ、平和創造の拠点としての機能を充実させました。その記念として開催した本講演会には、立命館大学の学部生・大学院生、附属校の生徒を中心に一般の方々も参加。講演後には中満氏と学生・生徒との対話の場も設けられました。

2

宇宙飛行士・野口聡一氏による特別講演会を開催

11月4日、びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて、BKC開設30周年記念事業と草津市市制施行70周年を祝う共催イベントとして、立命館大学の学長特別補佐で、宇宙地球探査研究センター研究顧問の宇宙飛行士・野口聡一氏による特別講演会を開催しました。現地に約800名、オンラインで約150名が参加。日本の宇宙開発の意義について、野口氏の話に耳を傾けました。

3



[2024 SEPTEMBER~DECEMBER]

2024年度立命館大学学園祭を 3キャンパスで開催

11月10日、大阪いばらきキャンパス、11月24日、衣笠キャンパス、12月1日、びわこ・くさつキャンパスにおいて、2024年度立命館大学学園祭を開催しました。学園祭テーマ「Unexpected!!!」のもと、クラブ・サークルによるイベントや展示、模擬店が開かれたほか、ステージでも多彩なパフォーマンスが披露されました。各キャンパスに1万人以上が来場し、大いに盛り上がりました。

地域交流イベント 「BKC ウェルカムデー」を開催

11月10日、びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて「BKC ウェルカムデー (BKC Well-being Campus Day) 〜びわこ・くさつ健幸フェスタ2024〜」(共催：草津市、草津市教育委員会、後援：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会)を開催しました。「スポーツ・健康」「アカデミック」「マルシェ(食)」など7カテゴリーで150以上の企画を実施。地域住民の方を中心に約14,000名が来場しました。

生成AIと教科書を活用した学びを 考えるワークショップを開催

11月16日、びわこ・くさつキャンパスにて、「生成AIアイデアソン 〜生成AIと教科書を活用した新しい学びを考えよう〜」を開催しました。当日は、「NewE × AI」を開発する東京書籍株式会社の協力のもと、生成AIを活用した新たな教育の在り方について、学生の柔軟な発想を引き出すワークショップを実施。最後に、優れたアイデアを提案した3名を表彰しました。

「学校法人立命館 2024年度 称号授与式・感謝状贈呈式」を開催

11月21日、ホテルグランヴィア京都にて「学校法人立命館 2024年度 称号授与式・感謝状贈呈式」を開催しました。10回目を迎える今回、「学校法人立命館寄附者顕彰規程」に基づき、学園に一定額以上をご寄付いただいた個人37名および法人・団体24組のうち、35名にご出席いただきました。森島朋三理事長がご支援に対する感謝の意を伝えるとともに、称号記と感謝状を贈呈しました。

立命館大学びわこ・くさつキャンパス 開設30周年記念式典を開催

12月1日、びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて、「BKC開設30周年記念式典」を開催しました。BKCは1994年に開設。現在では6学部6研究科を擁し、約14,000名が学ぶ学術拠点に発展しています。式典では、三日月大造滋賀県知事や橋川渉草津市長、地域の皆さま、学園関係者など約200名が参加。30年の成果を共有し、地域とともに築き上げた「つながり」の価値を再確認しました。





[2024 SEPTEMBER~DECEMBER]

「絵は読むもの？」内田也哉子さんとの対話型鑑賞会を開催

12月5日、立命館大学国際平和ミュージアムにて『「絵は読むもの？」-無言館共同館主・内田也哉子さんとの対話型鑑賞会』を開催しました。2024年6月、立命館と無言館は連携を強化し、内田也哉子氏を無言館の共同館主に迎えました。当日は君島東彦国際平和ミュージアム館長や学生ら約100名が参加。内田氏が選定した無言館の絵画5点を対話形式で鑑賞しました。

「平井嘉一郎生誕117年記念式典」を記念図書館で開催

12月14日、衣笠キャンパスの平井嘉一郎記念図書館にて「ニチコン株式会社 創業者 平井嘉一郎 生誕117年記念式典」を開催しました。平井氏のご遺志を継がれたご令室平井信子様により、「平井嘉一郎研究奨励賞」や平井嘉一郎記念図書館が設置され、本学の学び・研究を支えています。式典では、京都新聞社会福祉事業団「少子化対策支援活動基金」などへの寄付贈呈式を行いました。

科研費の配分額が過去最高の16億円 西日本私立大学1位を獲得

12月25日に文部科学省が発表した「令和6年度科学研究費助成事業(科研費)の配分について」にて、立命館大学の採択件数は、新規・継続合わせて669件、配分額は過去最高の16億316万円となりました。この結果は西日本の私立大学で1位(全国の私立大学では4位)です。「社会学」分野で1位を獲得し、「文学・言語学」「地理学・文化人類学・民俗学」「政治学」分野で4位となりました。

障害のある生徒の社会的包摂を考える「特別支援学校スポーツ交流会」

特別支援学校のスポーツ交流会を通して学校や地域と協働する学生団体「特別支援学校スポーツ交流会」は、約30年前から続く京都府立特別支援学校のスポーツ交流会にボランティアとして参画し、障害のある生徒も楽しめるユニバーサルスポーツ「チャレンジスポーツ」の企画・運営を行っています。設立から3年目を迎えた今年度も「校友会未来人材育成奨励金」の助成を受け、活動しています。

大阪・関西万博プロデューサーが学生団体の各種企画をメンタリング

学校法人立命館は、大阪・関西万博のシグネチャーパビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」に協賛しています。会期中、クラゲ館でのワークショップを計画。それに向けて、立命館大学万博学生委員会「おおきに」や3つの学生団体が、プロデューサーの中島さち子氏からメンタリングを受けたほか、「万博ワークショップコンテスト」を開催し、企画のブラッシュアップを図っています。

前田大光 RARA フェローが日本化学会第42回学術賞を受賞

生命科学部教授で立命館先進研究アカデミー(RARA)の前田大光フェローが、公益社団法人日本化学会「第42回(2024年度)学術賞」を受賞しました。この賞は、化学の基礎または応用の分野において先導的・開拓的な研究業績を挙げた研究者に授与されます。前田フェローの受賞は、同学会において、2008年度に進歩賞を受賞して以来の受賞となりました。



\大学の講義がいつでも見放題/ MIRAIアーカイブス

生成AIなどに代表される革新的技術の登場、人口減少や国際競争力の低下など日本の諸課題、緊張化する国際情勢――。

社会や経済のみならず、私たちの生き方や働き方も大きな見直しが求められている現代。それは「学び」についても同様です。

このたび立命館は、多くの皆さまのご要望に応え、「MIRAIアーカイブス」を開始します。「MIRAIアーカイブス」は、総合大学ならではの幅広いアカデミックな学びをいつでもどこでも体験できる「ポケットの中のキャンパス」。

「いまを生きるため先人の英知に学びたい」「専門家や研究者の知見に触れたい」「未知の世界を探索したい」など、学びを求める皆さまの期待にお応えする講義を展開します。



大学の講義が
200本以上
見放題！

For Life,
For Biz, For Eduで
分類しているので
あなたに合った
講義が選べる！

お試し期間
最大
31日間！

立命館大学在学学生、
校友の方は
さらに
1か月
期間延長特典！

月額利用料

1,280円 (税込)

MIRAIアーカイブス お試し視聴講義ラインナップ

※各講義とも冒頭の5分間をご視聴になれます。

For Life
人生を楽しむ
知を学ぶ



For Edu
未来を
育む



MIRAIアーカイブス視聴開始までの流れ

ポケットの中の
キャンパス！
MIRAIアーカイブスを
始める

初めての方
会員登録

MIRAI会員の方
マイページ
ログイン

MIRAI
アーカイブス
申し込み

Let's TRY!
まずは
お試し視聴から



「MIRAIアーカイブス」では、過去の立命館オンラインセミナーなどのアーカイブス(オリジナル講義含む)200本以上を常時ご視聴いただけます。

叙勲

■瑞宝中綬章

塩澤和章氏(’73院理工)
富山大学名誉教授

中川勝雄氏(教職員校友)
立命館大学名誉教授

■旭日小綬章

奥野英介氏(’69文)
元三重県会議員

三江弘海氏(’77経済)
元豊田市議会議員

■瑞宝小綬章

森政征史氏(’66経済)
元厚生労働省労働基準局
補償課長

戸田雄一郎氏(’71法)
元京都府南丹広域振興局長

西村常男氏(’73経済)
元京都市消防正監

旭直樹氏(’75文)
元公立高等学校長

山崎糸治氏(’75理工)
元京都市建設局長

古賀正弘氏(’77産社)
元静岡家庭裁判所
首席家庭裁判所調査官

門田公一氏(’78法)
元公立大学法人
愛媛県立医療技術大学
事務局長

宮西克典氏(’78法)
元神戸税関総務部長

関一也氏(’78経済)
元東税務署長

藤澤清隆氏(’78産社)
元四国経済産業局産業部長

■旭日双光章

鈴木豊氏(’77経営)
元一般社団法人
日本塗装工業会
京都府支部支部長

種田道一氏(’77産社)
能楽師(シテ方金剛流)
重要無形文化財「能楽」
(総合認定)保持者

■瑞宝双光章

桑原敏治氏(’70経営)
元松山労働基準監督署長

中道眞吾氏(’72経済)
元日本郵政公社職員
(特定郵便局長)

森晃朗氏(’79経営)
元岡山県監査事務局長

■瑞宝単光章

井川茂弘氏(’67理工)
元警察庁技官

危険業務従事者叙勲

■瑞宝双光章

井口俊明氏(’76法)
元京都市消防司令長

■瑞宝単光章

栢菅茂氏(’72法)
元岡山市消防司令

糸川均氏(’73法)
元香川県警視

岡田正裕氏(’76経済)
元京都市消防司令長

増田直樹氏(’78経済)
元京都市消防司令長

丸谷正人氏(’82経済)
元豊岡市消防司令

西村豊氏(’83経済)
元大阪市消防司令長

褒章

■黄綬褒章

久内麻佐行氏(’80法)
久盛不動産株式会社
代表取締役

青木和夫氏(’85経営)
滋賀県信用組合理事長

■藍綬褒章

西畑英明氏(’72法)
保護司

山田裕清氏(’82経済)
葛城市消防団副団長

就任(内定含む)

大田嘉仁氏(’78経済)
小林製薬株式会社
取締役会長

梶岡修一氏(’88産社)
株式会社神戸新聞社
代表取締役社長

泰山信介氏(’90経営)
昭和リース株式会社
代表取締役社長

当選

森智広氏(’01理工)
三重県四日市市長選挙

訃報

山本良夫氏(’62経済)
立命館大学校友会名誉幹事

村橋正武氏(教職員校友)
元立命館大学理工学部教授

中谷猛氏
立命館大学名誉教授
(法学部)

吉田秀生氏
立命館大学名誉教授
(経営学部)

山崎有恒氏
立命館大学文学部教授

校友会へご寄贈いただきました
ご著書の中から一部をご紹介します。

◆大塚活美氏(’82文)著
『石の文化財から探る滋賀の歴史』
サンライズ出版株式会社
1,650円(税込)

◆木住鷹人氏(’86法)著
『危険球』
株式会社早川書房
1,980円(税込)

海外在住の皆さまへ

2025年冬号より
会報「りつめい」はデジタル版に移行します

立命館大学校友会では、皆さまに確実に会報「りつめい」をお届けするため、2025年冬号(298号)より、海外へのお届けを郵送からデジタル版での配信に移行いたします。デジタル版は、会報「りつめい」発行ごとに閲覧用のURLとパスワードをメールでお知らせします。この移行に伴い、2025年冬号(第298号)以降、海外在住の方への紙媒体の郵送は終了いたします。何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

〈デジタル版のお届けにあたって〉

デジタル版は以下の条件を満たす方へお届けします。
会報送付対象の方(校友会費を納入されている方)で、
立命館大学校友会に「海外の住所」と「現住所メールアドレス」を登録されている海外在住の方
※「現住所メールアドレス」のご登録がない場合、会報のお届けはございません。この機会にメールアドレスのご登録をお願いします。



ご住所やメールアドレスの登録・変更について

ご住所やメールアドレスの登録・変更は、立命館大学校友会WEBサイトよりお手続きください。
※すでにデジタル版をご登録済みの方は、お手続き不要です。

 立命館大学校友会  各種手続き  ご連絡先変更



=====

大阪・関西万博開催までカウントダウン。前回開催時は中学生だった私も、3万人のボランティアの一人として、わくわくしている。昨年は大学入学50周年、全国からゼミの同窓生が京都に集い、グループラインがつながった。このSNS社会を想像だにしていなかった10代。ネットリテラシーがいかに重要か、痛感する日々だ。韓国のハン・ガンさんがノーベル文学賞を受賞された直後に、韓国取材に入った。地方の書店でも著作本は、sold out。観光関係のヘッドにインタビューした際に「同じ女性として、とても誇らしいです」と言われたのが印象的だった。いま、同窓会グループラインで、テレビに映った活躍する学生たちを応援する。私も、彼らも立命館出身であることが、誇らしい。

(高橋英子)

編集室から

“卒業してから何年たったなあ…”と、ふと思うことがあります。今では自分の子どもが、当時立命館でお世話になった年齢に近づいてきており、なんだか不思議な感慨深い気持ちになるものです。令和になり、時代の空気や常識が一気に変わっていったような気が致します。メディアやマスコミの常識も疑われる時代となり、インターネット社会で情報やつながりも増え、ある種の自己責任・自己判断が求められる場面も増えてきたように思います。そんな時代の中、立命館というのは本当に素敵な名前だとしみじみ感じ入ることが増えました。「人間がその本分を全うする場所」—自分自身、生まれた意味を全うできるように、生きていたいとよく願います。皆さまの新年度が、素敵な幕開けとなりますように。

(安井亜希)

今度卒業する学生が入学した頃は、まだコロナ禍が落ち着いておらず、ワクチンも国内には出回らず、リモート授業が続いており、多くの友人たちや教員と交流できるキャンパスライフを思う存分謳歌することができなかったことだろう。そういう時期を知る最後の世代が、いよいよ卒業していく。彼らがパンデミックにさらされる日が二度と来ないことを祈るばかりである。もっとも、新型コロナウイルス感染症の流行が、目に見えなくなっても、実際には消えてなくなったわけではないし、後遺症が免疫システムにどのような影響を及ぼすのか、研究は始まったばかりで先行きは見えならしい。楽観的な意見が真実なら、いいんだけどなあ。

(日下部和弘)

世界初の万国博覧会が1851年にイギリス・ロンドンにおいて開催されました。この万博では時代背景として、印刷技術の進歩により広告宣伝効果の影響があったことや、革新的な鉄道網の発達により、5カ月間で600万人以上が訪れたようです。当時の日本は江戸時代の末期で鉄道などもなかったので、世界と日本との技術格差はとても大きかったことがうかがえますが、現代ではその格差はなくなり、世界に誇る産業なども誕生しました。大阪・関西万博において立命館は、中島さち子氏が手掛ける「教育」をテーマとするシグネチャーパビリオン「いのちの遊び場 クラゲ館」に協賛しているので、校友の皆さんも万博に訪れた際に、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

(西井将哉)

=====

立命館大学国際平和ミュージアムのご案内

2025年度ギャラリー企画展

ギャラリー企画展とは

常設展示の構成要素として平和のメッセージを伝える内容で、本学構成員、市民(団体)による自主的な展示企画を行っています。

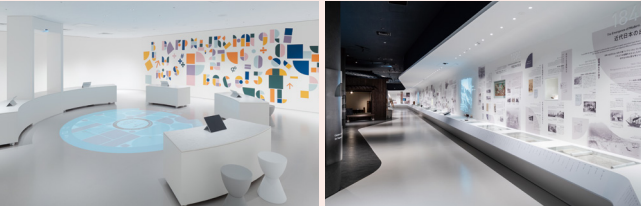
ギャラリー企画展

2025年度はベトナムや沖縄の写真展、平和をテーマにした絵本作品などさまざまなテーマで開催します。



企画展示の様子

「戦争の記憶を共有する」「平和創造の場となる」「平和創造を支える調査研究活動の拠点となる」を基本コンセプトに、2023年9月23日にリニューアルオープンしました。



リニューアルのポイント(常設展示室)

- POINT. 1
展示室の周囲を年表展示で囲み、展示室の中心にテーマ展示を設けました。年表展示とテーマ展示を往還することにより、学習を深めることができます。
- POINT. 2
見学を通して、歴史の中の多様な課題から、現代の諸課題につながる流れをくみ取ることで、「平和」を身近なテーマとして捉えられるような構成にしています。

開館時間 午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休館日 日曜日および祝日の翌日(日曜日が祝日の場合は開館、翌日が休館)、年末年始、夏期休暇中の大学が定める日

見学資料費(入館料) 一般400円/中学生・高校生300円/小学生200円 障害者手帳、被爆者健康手帳、戦傷病者手帳をお持ちの方(介助者1名を含む)は無料

※校友の皆さまは右下の校友招待券を受付に提示、または校友申請手続きで無料となります。

立命館大学 国際平和ミュージアム

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL.075-465-8151 FAX.075-465-7899 URL https://rwp-museum.jp/

立命館大学国際平和ミュージアム
常設展 特別展
校友招待券
(校友1名連入館無料)
校友会「りつめい」
No.298